

森岡拓郎
政策研究大学院大学¹

松本涼佑
公益財団法人鉄道総合技術研究所²

概要

本研究は通勤者の混雑回避行動を分析することにより、通勤鉄道混雑の外部不経済の定量化を行った。この研究で注目した通勤者の混雑回避行動は、混雑時間帯での出社を避けるという行動と、有料列車の利用により混雑を避ける行動の2つである。これらの混雑回避行動を分析するために、出社時刻選択行動および有料列車利用有無選択行動を離散選択モデルにより定式化した。このモデルの推計には各通勤者の意思決定および、各時間帯・各駅間の混雑率のデータが必要であった。このため大都市交通センサス首都圏版の個票データを利用して、各通勤者の意思決定を把握するとともに、各時間帯・各駅間の混雑率を計算した。推計により通勤者が社会にもたらす限界外部不経済を定量化するとともに、通勤者が被る平均の外部不経済を定量化した。

キーワード

通勤鉄道 混雑の外部不経済 出社時刻選択 mixed logit model 大都市交通センサス

¹ 東京都港区六本木 7-22-1

² 東京都国分寺市光町 2-8-38